

Fuji Champion Race Series Round 5

2022.10.22 SAT - 23 SUN

TOYOTAGAZOO Racing
Yaris Cup
East Japan Series Round 7
West Japan Series Round 7



TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 東日本・西日本シリーズ第7戦は113台というエントリーとなった。予選はA・B・C組と3組に分かれ、各組1位から18位までが決勝を走ることが出来、19位から36位までがコンソレーションレースへ出場となった。36～38台ずつに分かれて行われた予選で、トップタイムをマークしたのはC組トップの#919 ウィング☆制動屋☆NUTEC Yaris 森川なるお 2'15.136。フロントローにはB組トップの#14 トヨタユナイテッド静岡 Yaris CANDY竹川が2'15.425で並ぶ。3番手にA組トップの#1 GB CAMP Yaris 大森和也2'15.482の順。CVTクラスでは、C組総合15位の#20 Tモビリティ神奈川Yaris CVT 山口徹が2'16.946でクラストップ・総合43番手ポジションからのスタートとなった。54台フルグリッドでの決勝では、スタート直後の激しい争いもトラブルなくTGRコーナーを通過する各マシンは、各コーナーで横並びのバトルを展開。

オープニングラップをトップで戻って来たのは#14竹川。3周目には#1大森がトップに立ち、4周目には#919 森川がトップを奪い返すという、めまぐるしい展開が繰り広げられる。また、その背後には、9番手からオープニングラップで一気に4位まで上がってきた#551 team 5ZIGEN Yaris 広島高真がトップ争いに加わり、6週目には2位まで順位を上げたが、ラスト2週の激しいバトルの末、優勝は#919 森川、2位に#1 大森、3位が#551 広島という結果となった。CVTクラスはクラス3番手から追いつけた#83 GYアウティスタYaris CVT川副健太が優勝した。レース後#919森川は「初めてのポールトゥウィンです！今日は絶対に勝つ！！という意気込みでのぞみました。本当に嬉しいです」#83川副「水曜日にマシンが出来て、まだ300kmくらいしか走っていない状態でした。予選も大失敗してしまいましたが決勝で挽回できてチームみんなで大喜びです」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Yaris Cup

Rank No.	Name
1	919 森川 なるお
2	1 大森 和也
3	551 広島 高真
4	38 神谷 裕幸
5	14 CANDY 竹川
6	10 吹谷 慎一郎



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Yaris Cup CVT

Rank No.	Name
1	83 川福 健太
2	91 塚原 啓之
3	20 山口 徹
4	887 増井 大輔
5	311 クルマドーさっちゃん



Round 10

JAF地方選手権F4シリーズは今年3戦を残す終盤戦となり、今回は土日で第10戦・第11戦が行われる。土曜日の予選では、ベストタイムが第10戦のグリッド、セカンドベストタイムが翌日曜日の第11戦のグリッドを決めるレギュレーションとなっている。第10戦のポールポジションを決めたのは#5 MARUSAN★ミスト 佐藤樹 1'43.741。フロントローには#6 ファーストガレージ&ISP 佐々木孝太 1'43.824、3番手に#8 KKヨネタニ・OKABE・Rn 小松響 1'43.866という結果。Gクラストップは総合7番手の#11 Rnsports制動屋KKZS 植田正幸 1'44.720。土曜日の決勝レースは13:30にスタートが切られ、#5佐藤がポールからそのままトップでTGRコーナーへ。その他のマシンもいいスタートを切り、ほぼグリッド通りの綺麗な隊列で全マシンTGRコーナーをクリア。オープニングラップでジャンプアップしてきたのがGクラス

トップの#11植田。総合でも4番手まで上がってきてものの、その後の猛追も期待されたが、2周目以降じりじりと順位を下げてしまった。その後もトップの#5 佐藤はファステストラップを更新しながら徐々に後ろを引き離しにかかり、13週の決勝をポールトゥウィンで決めた。2位は#6 佐々木、3位が#8 小松というグリッドと同じ順番でフィニッシュとなった。Gクラスではクラス2番手、総合10番手から追いつけた#38 NAVY★RK-01 安井和明が優勝。レース後各クラス優勝ドライバーのコメント #5佐藤「最近良いカンジに乗れてきます。速く走る技術が身に付いた感じがします」#38 安井「今日はスタートを失敗してしまいましたがとにかく完走を目指して頑張りました。クラスチャンピオンも決定してとても嬉しいです」と語った。

RESULT リザルト F4

Rank No.	Name
1	5 佐藤 樹
2	6 佐々木 孝太
3	8 小松 響
4	92 黒沼 聖那
5	72 金井 亮忠
6	66 富田 自然

RESULT リザルト Gentleman

Rank No.	Name
1	38 安井 和明
2	9 KAMIKAZE
3	11 植田 正幸
4	16 ISHIKEN
5	0 渡邊 義人
6	99 武居 義隆



Round 11

JAF-F4シリーズ第11戦、予選のセカンドベストタイムで決まったグリッドは、今回も#5 MARUSAN★ミスト 佐藤樹が1'43.753でポールポジション。フロントローには#8 KKヨネタニ・OKABE-Rn 小松響 1'43.873。3番手に#6 ファーストガレージ&ISP 佐々木孝太 1'43.960という結果。Gクラスのトップは総合8番手で#38 NAVY★RK-01 安井和明 1'45.185、その隣にはGクラス#11 Rnsports制動屋KKZS 植田正幸も1'45.246でつづけている。日曜日の10:30にスタートが切られ、トップの#5佐藤が先頭を守りその後ろでは#8佐々木が2番手に上がる。しかしオープニングラップの300Rで数台のアクシデントが起り、SCが導入。そのまま

3周回した後5周目に再スタートが切られ、そこでもトップを譲らない#5佐藤はファステストラップを更新しながら徐々に2番手以下を引き離しにかかり、13週の決勝は2番手の#6 佐々木に3.4秒の差をつけて#3佐藤が連勝を果たした。Gクラスでは#38 安井と#11植田のバトルが見られたが、#38安井が逃げ切りこちらも連勝となった。レース後各クラス優勝ドライバーのコメント #5 佐藤「ストレートがあまり速くなくてSCの再スタートが気になりましたが上手くいったです」#38安井「今日も安全運転で逃げ切れました。今回でチャンピオンも決まりましたが最終戦の鈴鹿も連勝目指して頑張ります」と語った。

RESULT リザルト F4

Rank No.	Name
1	5 佐藤 樹
2	6 佐々木 孝太
3	72 金井 亮忠
4	8 小松 響
5	9 太田 達也
6	92 黒沼 聖那

RESULT リザルト Gentleman

Rank No.	Name
1	38 安井 和明
2	11 植田 正幸
3	16 ISHIKEN
4	0 渡邊 義人
5	36 富澤 もぐら



FCR-Vitz/FCR-86BRZ RACE Round 3



ナンバー付き車両で競われるこのカテゴリー。今回は86&BRZとVitzの混走で戦われる。86&BRZが22台、Vitzが23台と盛況になっているこのレースは、まだまだマシンも現存で持っているし、今までのデータ取りも出来ているのと、何よりとても良いレース経験となるこのカテゴリー。日曜日朝の予選で最速タイムを出したのが86&BRZ #338 MSG Racing 86 角谷昌紀 2'05.940。2番手には#115 OFFICE HIT K-one 86 三浦 亮 保 2'06.213。Vitzのクラストップは#456 GarageN SALTO EXEDY Vitz 大崎達也 2'16.562。続くクラス2番手には#50 NUTEC☆制動屋おうちの買い方 Vitz 三浦康司 2'16.916が並ぶ。決勝ではスタート直後からの激しいトップ争いでトップ2台からして並んでTGRコーナーへ消えていく。オープニングラップを終え、トップ2台はそのままだが、3番手には#312 埼玉自動車大学校MS86 松本晴彦、4番手に#23 N-SPEED86 YOSHIKIが上がってきた。4周目に

単独アクシデントがあり、SCが導入され、車両排除などにより8周目にリスタートが切られる。残り2周となったレースは順位変動はなく、#338 角谷がトップチェッカーを受けるがその後の再車検で失格となり#115 三浦が優勝。Vitzも終始大バトルが繰り広げられ、SC導入前の4周目には#50三浦がトップに立つも、リスタートでは#456がトップに。その後もバトルは続き0.2秒差で先にチェッカーを受けたのは#456 大崎だった。レース後の各クラス優勝ドライバーコメント。86&BRZ #115 三浦「昨日の練習走行ではあまり調子が出なかった。予選では4周目にトップタイムを出してこのまま行けるか？と思っていたんですがラストラップで抜かれてしまいました。昨年からレースを初めて経験が少ないですが、優勝出来て嬉しいです」Vitz #456 大崎「三浦さんと競り合いながら勝てたので、ものすごく嬉しいです！」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト FCR-86BRZ RACE

Rank No.	Name
1	115 三浦 亮 保
2	312 松本 晴彦
3	23 YOSHIKI
4	303 奈良 敬志
5	101 伊藤 幸佑
6	406 マン太郎



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト FCR-Vitz

Rank No.	Name
1	456 大崎 達也
2	713 白井 涼
3	208 太田 智史
4	333 浅見 大志
5	307 井上 功
6	203 野々垣 善也

FCR-VITA Round 2



今シーズン全4戦で開催されるFCR-VITAは5月の開幕戦から間を空けて、今回が第2戦。全国的に盛んになってきているこのマシンのレース。今回は39台のエントリーがあり、富士スピードウェイでも大盛況となっている。土曜日の予選では#470 フジタ薬局アポロ電工高山短大VITA 徳升広平が1'59.563でポールポジションを獲得。2番手タイムは#37 Keeper Vita 翁長実希の1'59.636だったがペナルティにより4グリッド降格となってしまう。代わってフロントローには#55 RaiseUP ACRE-01 小西 岬 1'59.743、3番手グリッドには#32 ビーフラッド横浜grVITA 並木俊貴 2'00.015、4番手に#50 BRM VITA 塚田海斗 2'00.028というグリッド順になっている。10:50にスタートがきられた決勝ではスタート直後から激しいバトル。ダンロップコーナー入り口では小型のVITAならではの4ワイドで侵入。オープニングラップは#55 小西、#50 塚田、#32 並木の順、4番手になった#470徳升だが、その後はファステストラップを更新しながら徐々に順位を上げ、8周目にはストレートでトップの座を奪い返す。その後もトップから10台はコンマ差で各所でのバトルを続けるが、10周の決勝は#470 徳升が#50 塚田と0.084秒差でトップチェッカーを受けた。3位には#55 小西という結果。#470徳升「もう大変でした！抜かれた後も追いつくのに精いっぱいでしたが、マシンの調子がバッチリ決まっていたので、このようなマシンに仕上げてくれたチームに大変感謝をしています」とレース後に語った。



RESULT リザルト FCR-VITA

Rank No.	Name
1	470 徳升 広平
2	50 塚田 海斗
3	55 小西 岬
4	37 翁長 実希
5	32 並木 俊貴
6	12 大野 俊哉

KYOJO CUP Round 2



開幕戦から5か月ほど空けて行われた第2戦、コロナ禍からの入場規制も徐々に解除された部分もあり、少しずつ以前の華やかさも取り戻してきたKYOJO CUPは19台のエントリー。今回はFCR-VITAとのダブルエントリーのドライバーも多い中、日曜日の予選でトップタイムを出したのは#37 KeePer VITA 翁長実希の2'00.085。2番手には久しぶりに戻って来た#109 KYOJO TOKEN DREAM VITA 三浦 愛 2'00.357、3番手には#38 LHG Racing YLT VITA 猪爪 杏奈 2'00.791となった。決勝はスタート直後のTGRコーナーでギリギリでインを奪いトップに立ったのは#109 三浦。オープニングラップから各所で順位の変動がめまぐるしく繰り返される。2周目にはTGRコーナー進入で#37翁長がトップを奪い返し、2番手に#109 三浦、3番手にはその周で前に出た#87 おさきにどうぞ☆Vita 山本龍が3番手に。トップを奪い返した#37 翁長がそこから周回ごとにファステストラップを更新しながら2番手以下を徐々に引き離していく。その後ろで2番手争いは5台のマシンが団子状態で各コーナーで激しいバトルが繰り返され、ストレートに戻るたびに順位の変動が繰り返される戦いが続く。後半に入った7周目には#37翁長がファステストラップを更新し、2番手には#38 猪爪が集団から抜け出し、その後ろでは激しい3番手争いとなったが、10周目には#337 D.D.R Vita-01 斎藤愛未が3番手に抜き抜け出してそのまま逃げ、12周の決勝レースは#37翁長、#38 猪爪、#337 斎藤の順でチェッカーとなった。レース後#37 翁長は「オープニングラップではヒヤッしましたが、集中して焦らずついていきました。抜き返してからは落ち着いて自分のペースを守り切れました。」と語った。



RESULT リザルト KYOJO CUP

Rank No.	Name
1	37 翁長 実希
2	38 猪爪 杏奈
3	337 斎藤 愛未
4	87 山本 龍
5	47 下野 瑠央
6	109 三浦 愛

Inter Proto Series
Round 3-4
Gentleman Driver



5か月のインターバルを空けて開催されたインタープロト。ジェントルマンクラスでは、開幕戦に間に合わなかった#55人馬一体ドライビングアカデミーも新たなマツダのテストドライバー川田浩史をドライバーに迎えこのレースに戻って来た。土曜日に行われた予選では、ベストタイムが第3戦のスターティンググリッド、セカンドベストタイムが翌日曜日に行われる第4戦のグリッドというレギュレーションになっている。予選でトップタイムをマークし、第3戦のポールポジションの座を射止めたのはIPS-Eクラス#37 キーパー号 大蔵峰樹 1'46.922。フロントローには#32 NETZ NOVEL MIE永井秀貴1'47.837。IPS-Gでは初参加ながら#55 川田が1'48.508でトップからのスタート。SUPRAでは#71 ダイワN通商アキランドレーシング 大山正芳。CCS-Rには#10 NTP CCS-R 木村真弓がトップ。決勝ではトップ4台が終始激しいバトルを続けたが、#37 大蔵が逃げ切り優勝した。Gクラスは#55川田、SUPRAは#71大山、CCS-RではこのところSUPRAで参戦していた#51 P.MU.RACING CCS-Rト部治久が久しぶりのCCS-Rに戻り優勝した。レース後、#37大蔵は「今まで負けていたので勝ててとても嬉しいですが、明日は冷静に走れるように気を付けます」と語った。

翌日曜日の第4戦はポールが#37 大蔵の1'47.268、フロントローには#32永井1'47.961。Gクラスは総合でも4番手タイムで#55川田が1'48.743のトップからのスタート。SUPRAは総合7番手タイムをマークした#71 大山の1'51.938。CCS-Rは木村 1'59.074となっている。決勝ではスタートを上手く決めた#32永井がトップに立つが、その後も各所で#37 大蔵とのサイドバイ

サイドの激しい戦いを繰り広げ、目が離せない展開が続いたが、12週の決勝は0.4秒差で#32永井が先にチェッカーを受けた。Gクラスは#55川田がデビュー2連勝を飾った。SUPRAは#71 大山が逃げ切り連勝。CCS-Rも#51ト部の連勝となった。レース後、#32永井は「バトルが楽しくフェアに出来ました。今日は良いペースで逃げるぞ!」と思って走っていました。初出場ながら2連勝したGクラスの#55川田は「勝ててびっくりしましたがとても楽しいです。市販車はかなりいろいろ乗っていますがレーシングカーは初めてで、Gのかかりかたなどに最初は圧倒でしたが乗りなれてくるとタイヤからの情報とかがかなりわかりやすいですね」と語った

Round 3



RESULT リザルト IPS-E

Rank	No.	Name
1	37	大蔵 峰樹
2	44	山口 達雄
3	32	永井 秀貴
4	3	FLYING RAT



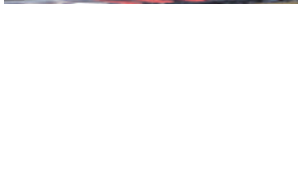
RESULT リザルト IPS-G

Rank	No.	Name
1	55	川田 浩史
2	96	末長 一範
3	88	八木 常治
4	16	渡邊 久和
5	8	山崎 哲之



RESULT リザルト CCS-R

Rank	No.	Name
1	51	ト部 治久
2	10	木村 真弓
3	87	天野 雅仁
4	39	豊島 豊



RESULT リザルト SUPRA

Rank	No.	Name
1	71	大山 正芳
2	38	兼重 和生

Round 4



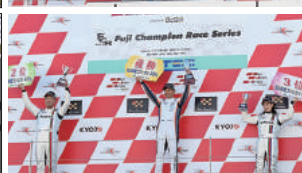
RESULT リザルト IPS-E

Rank	No.	Name
1	32	永井 秀貴
2	37	大蔵 峰樹
3	3	FLYING RAT
4	44	山口 達雄



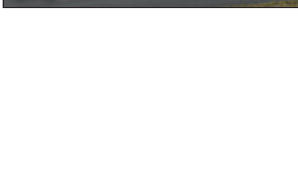
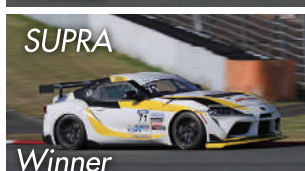
RESULT リザルト IPS-G

Rank	No.	Name
1	55	川田 浩史
2	96	末長 一範
3	16	渡邊 久和
4	7	勝又 隆二
5	88	八木 常治
6	8	山崎 哲之



RESULT リザルト CCS-R

Rank	No.	Name
1	51	ト部 治久
2	87	天野 雅仁
3	10	木村 真弓
4	39	豊島 豊



RESULT リザルト SUPRA

Rank	No.	Name
1	71	大山 正芳
2	45	横井 克一郎

Inter Proto Series
Round 3-4
Professional Driver



今回最後の決勝レースとなったIPSプロクラス。毎回日本を代表する豪華なプロドライバー陣のガチンコ勝負連続2レース。第3戦のグリッドを決める土曜日の予選でポールポジションを獲得したのは、#44 NAVAL 山下健太 1'45.115。フロントローには#32 NETZ NOVEL MIE 坪井翔が1'45.241で並ぶ。SUPRAでは#38 P.MU RACING SUPRA 石浦宏明が1'46.896でクラストップ。CCS-Rは#39 P.MU RACING CCS-R 堤優威が1'49.852でクラストップとなった。日曜日の15:13にスタートが切られた第3戦決勝レースはスタート直後のTGRコーナーは、各クラス綺麗な隊列のままストレートから消えていく。周回を重ねてもコンマ差の激しいバトルが続き、多少の順位変動はあったものの、44山下が2位と0.1秒差でトップチェッカー。SUPRAではラストラップに#45 NTP SUPRA 片岡龍也がトップに立ち、チェッカーとなった。続く第4戦ではトップを守る#44山下を2周目の1コーナーでインを奪った#32 坪井がトップに立つ。その後も何度も並びかけるが8週の決勝は#32坪井が制した。SUPURAでは第3戦優勝の#45片岡がトップを守り切った。CCS-Rは第3・4戦とも#39 堤が優勝。レース後各クラス優勝ドライバーコメント IPS Pro#32 坪井「1レース目はとにかく山下さんについて行って、2レース目に狙っていこうと。思っていたようにできました。前に出た後は思っていたより後ろが離れてくれたのでうまくいきましたが実はマシンはクラッチが少し調子悪かったので逃げ切れて良かったです」SUPRA #34片岡「バタバタな週末でした。昨年から石浦さんも出てきて、マシンにもいろいろ課題もあったのですが、開幕戦が出られなくてデータが取れなかった。次のレースに向けてドライバー、エンジニアとまたセッティングを詰めていきたいです」CCS-R #39堤「初めてインタープロトに参加させていただきましたが、とても良いレースですね。第3戦ではタイヤを温存しながら走っていましたがそこからは自分のペースで走り切ることができました」と語った。

Round 3

IPS



Winner



2nd



3rd

RESULT リザルト IPS

Rank No.	Name
1	44 山下 健太
2	32 坪井 翔
3	3 阪口 晴南
4	37 福住 仁嶺
5	16 Ronnie QUINTARELLI
6	88 佐々木 大樹

CCS-R



Winner



2nd



3rd

RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	39 堤 優威
2	87 山内 英輝
3	10 阪口 良平
4	51 新田 守男

SUPRA



Winner



2nd



3rd

RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	45 片岡 龍也
2	38 石浦 宏明
3	71 谷川 達也

Round 4

IPS



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト IPS

Rank No.	Name
1	32 坪井 翔
2	44 山下 健太
3	3 阪口 晴南
4	37 福住 仁嶺
5	7 野尻 智紀
6	16 Ronnie QUINTARELLI

CCS-R



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト CCS-R

Rank No.	Name
1	39 堤 優威
2	87 山内 英輝
3	10 阪口 良平
4	51 新田 守男

SUPRA



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	45 片岡 龍也
2	38 石浦 宏明
3	71 谷川 達也